

高齢社会NGO連携協議会臨時会員総会

日時 平成28年8月17日（水）午後2時～5時

場所 日比谷図書文化館4階スタジオプラス

I 議題

- 1 高連協の活動継続について
- 2 高連協の活動方針・方法について
 - ・会員団体からのチーム提言について
- 3 役員体制について
- 4 事務局設置について

5 その他

II 配布資料

鷹野義量準備委員会委員長欠席（病欠）、樋口恵子代表欠席（急務）。野島卓郎準備委員会連絡窓口が議事進行。

今後の高連協の活動は、高連協の会員団体からの提言（手上げ方式）に基づき賛同会員を募り、提言団体を中心に具体的活動を展開することとする。

まず「議題2 高連協の活動方針・方法について ・会員団体からのチーム提言について」から進めて、その結果から「議題1 高連協の活動継続について」に戻って議決する。

議題2 高連協の活動方針・方法について

・会員団体からのチーム提言について

会員団体からのチーム（プロジェクト）提言

① 政策提言チーム（新地域支援事業における社会参加活動に関する政策提言）

「公益財団法人さわやか福祉財団」からの提言

さわやか福祉財団高橋望氏が趣旨説明。（配布資料より）

1. 提言の目的

○現在、厚生労働省が推進している新地域支援事業は「助け合い・支え合い活動の創出」を目的としており、その担い手として、高齢者による社会参加が期待されているところです。

○この活動を創出する仕組みとして、全国の市区町村に「生活支援コーディネーター（SC）」と「協議体」が設置されます。

○この新地域支援事業は、自治体や企業等、各方面の担当者が意識を変えて取り組んでいく必要があります。事業が実施されている今が、各地で一斉に地域づくりを推進する絶好の機会となります。

○政策提言チームでは、新地域支援事業をきっかけとして高齢者の社会参加によって地域での助け合い・支え合い活動を推進していく具体的な活動について取りまとめ、提示する考えです。

2. 政策提言のテーマ

これまで有志による3回の社会参加方策勉強会を実施してきており、その結果を踏まえ、以下のテーマについて提言を取りまとめていくことを考えています。

- ① 自治体組織の縦割りの解消にむけて提言
（「助け合い」についての理解促進、教育の切り口から地域参加を推進等）
- ② 地域住民・企業への理解に向けた提言
（健康づくりや災害対策、企業への情報提供をきっかけとした社会参加推進等）
- ③ 活動を促進するための法令の制定・改定にむけた提言
（ボランティア活動認知のための法律制定、助け合いによる移動支援推進等）

3. 今後の活動について

○社会参加方策勉強会参加メンバーを中心に、有志による政策提言勉強会を開催し、上記3つのテーマに沿って提言内容を協議し、時期を失せず取りまとめを行っていきたい考えです。

○検討会は2～3回の開催を想定しています。

検討会の事務局（開催・運用の世話役）は、さわやか福祉財団にて行います。

○取りまとめた提言は、高連協より、広く発信していく想定です。

質疑応答のち議決：承認挙手。賛成多数で承認。

② 登録チーム（新地域支援事業における社会参加方策）

「公益財団法人さわやか福祉財団」からの提言

さわやか福祉財団高橋望氏が趣旨説明。（配布資料より）

1. 目的

○新地域支援事業の推進のためには、その要となる「生活支援コーディネーター（SC）と「協議体」への活動支援が重要になります。

○そこで、高連協会員団体の構成員及び関係者が、それぞれの知識や経験を活かし、自身が居住する各地でこの活動を支援することで、地域での助け合い・支え合い活動を推進していきたい考えです。

○具体的な活動としては、地域で開催される「担い手募集」のための説明会等の講師として協力、地域での担い手づくりのための活動の企画の提案、社会貢献活動に関心の高い企業に対しての情報提供・アドバイス実施による活動推進等を想定しています。

2. 「プラットフォームの構築」

○活動する意思のある人の地域への発進の装置として、高連協のホームページ上にプラットフォームを新たに構築し、各自が登録していく形態を検討しています。

○このプラットフォームには、地域活動を支援しようとする会員団体構成員が、自身の手で登録を行い、その情報を自治体やSC、協議体が登録者情報を閲覧・確認し登録者に活動支援を依頼したり、登録者自身が地域でSC、協議体等に対して積極的に働きかけを行っていききっかけとなることを目指しています。

○このプラットフォームを核として、自治体との連携に加え、地域の企業とのネットワーク化も推進していきたいと考えています。

3. 今後の展開について

○プラットフォーム構築の具体的な手順としては、以下を想定しています。

- (1) 会員団体が「参加案内」を各団体の会員及び関係者に配布し参加募集する。
- (2) 参加意思のある人が、高連協ホームページに用意された「プラットフォーム」に自身で直接登録する。
- (3) 各地域のSC・協議体の呼びかけに応じ、講師や企画協力を行う。
(登録者本人が在住地域のSCと連絡をとり、積極的に活動協力することも推奨)
- (4) 講師協力等の活動記録をプラットフォームに記録、今後の活動の参考としていく。
- (5) 活動状況に応じて、研修会等の開催を検討する。

質疑応答のち議決：承認挙手。賛成多数で承認。

③ 国際チーム（国際団体との連携）

「AARP」「FOIFA」からの提言

NPOグローバルスカイ理事長升田忠昭氏が趣旨説明（配布資料より）

高連協の新体制構築にあたり、従来通りの国際担当を、「国際チーム」として継続することを提言します。2007年のAARP東京フォーラムに始まり、AARPとは2年に一度の「Innovative Retirement Reward or Retired Persons」への日本からの参加に協力し、また2年前からは、Generations United 主催ハワイ国際フォーラムに参加、そして昨年度は、高連協主催（厚労省後援）での「健康寿命の延伸フォーラム」開催にあたり、IFAの窓口であるFOIFAが実行委員長として、資金面でも協力するなど、海外団体との関係を強化してまいりました。

今後も、超高齢社会のTOPをいく、日本の高齢社会の課題に取り組む民間団体の代表である高連協の更なる発展と貢献のためにも、海外との更なる情報交換や協賛フォーラムを強化実践していく必要があると考えます。

つきましては、「国際チーム」を継続することを提言します。

国際チームの体制

- ・IFA理事であるFOIFA（Friends of IFA）の穂積恒理事長
- ・AARP正社員であり、Generation United の日本窓口 NPOグローバルスカイ升田忠昭理事長

質疑応答のち議決：承認挙手。賛成多数で承認。

④ 世代間交流チーム（多世代共生のコミュニティの実現）

「NPO法人 日本世代間交流協会」からの提言

「NPO法人 日本世代間交流協会」会長杉啓以子氏が趣旨説明。（配布資料より）

企画名 「様々な世代と様々な人がそれぞれに持っている力を出し合い、支え合う」
～多世代共生のコミュニティの実現～

- 活動の柱
- ① 多世代共生の地域づくり・多世代カフェ等の実践の場のリサーチと地域づくりの方法と効果の検証
 - ② 多世代を繋ぐ「交流促進・コーディネーター」の育成プログラムの構築と現場への積極的利用
 - ③ ①と②の活動への参加と推進のために、平成28年10月より2か月に

1 回程度の勉強会（仮称 research&学び舎）を実施する。

質疑応答のち議決：承認挙手。賛成多数で承認。

以上 4 チームの提言を高連協の活動にふさわしいとして承認。そこで議題 1 にもどって活動を継続するというので決議。

議題 1 高連協の活動継続について

上記の 4 チーム提言の承認を得て、高連協の活動継続について

議決：承認挙手。賛成多数で承認。

議決 3 役員体制について

現行の憲章・会則により役員を選任。

役員会

代表 2

樋口恵子代表（高齢社会をよくする女性の会）

堀田力代表（さわやか福祉財団）

理事 8 名

・代表の団体から理事選任

新井倭久子氏（高齢社会をよくする女性の会）

野島卓郎氏（さわやか福祉財団）

・提言団体からの選任

穂積恒氏（FOIFA）

升田忠昭氏（AARP、GU）

杉啓以子氏（日本世代間交流協会）

・自薦・他薦

黒水恒男氏（社会教育協会）

森保氏（日本産業退職者協会）

岡本憲之氏（JTTA）

監事 2

横田安宏氏

若林健市氏

以上各氏をひとりずつ挙手により承認。

議決 4 事務局設置について

岡本理事が野島卓郎氏を推薦。

拍手にて事務局長に選任。

5 その他

なし

堀田力代表挨拶

樋口代表がやむをえずご欠席で、さびしい思いをいたしておりましたが、この会自体は高連協が新しくしっかりと事業に取り組んでいこうという強い決意を示された、いわば記念すべき再生の日になったと、たいへん頼もしく心強く思っております。天国で心配していたであろう吉田さんも、きっとこれで安心できるというふうに思ってくれたことと思います。

みなさま方の熱い思いに敬意を表したいと思います。

この高連協は発足しました時は大変に新鮮で、これから新しい道を切り開いていくんだ、高齢者の社会参加をしっかりと推し進めるんだ、というそういうみなさんの熱い思いが燃えるような、そういう発足当時の団体でありました。

当時はまだ高齢者がだんだん社会から疎外されていく、役割を与えられないやっかひもの扱いされる、そちらのほうに問題点が絞られておまして、高齢者はどう生きていけばいいんだというさびしさと不安が高齢者を覆っておった。だからこそ、われわれが社会参加して他の世代と協働しながらいい社会を築いていくんだというわれわれの訴えに、多くの方が共鳴して会員になってくださいましたし、出しましたいろんなメッセージにも新鮮さがあり、大きな反響を引き起こしたのだと思います。

われわれの活動がしっかり根を張ってくるにつれ、なんとなくマンネリ感が現われてきた。社会的には医療制度、介護保険制度等々も整備されて、なんとなく高齢者に安心感が出てまいりましたし、世間的には高齢者にサービスしすぎではないか、子育てのほうが無視されているのではないか、そのくらいの声が起こるほどの状況になってきた。

これはわれわれがひとつは望んだことではありますけれども、そこで安心していいのだろうか。高齢者はいまこそ、ますます困っている子育ての世代や格差に悩まされている若い世代をしっかりと支える、社会参加のほうをもっともっと今まで以上にがんばって、実現していかなければいけない。そういう段階に入っているのではなろうか。

そういう中で、当初の熱い思いを忘れていたのでは、これは高連協は何のためにあるのだということになってしまう。われわれはどうしていくんだ、ほんとうにやるのかという問いを突き付けられています。それに答えるのはもちろん会員のわれわれしかない。どれだけしっかりみんなでがんばっていく意思があるのか。そのことを確かめようというのが、前の臨時総会で決まった「手挙げ方式」で、いったいどれだけの団体がもう一度しっかり取り組むという気持ちを示すのかということだったと思います。

その答えが本日出た。しっかりやっつていこうというチームが四つ立ち上がり、高連協のチームとして認められました。われわれが介護保険などの制度で保障されたことによる安心で社会参加していこうという気持ちを失いかけていた、そういう高齢者全体の空気をはねのけて、もう一度、最初の時のように、しっかりわれわれのすべきことをしていこうという決意を示した、そういう日であろうと思います。

実際に世の中で余っているエネルギーは、高齢者にしかない。子どもたちは勉学に追われて疲れており、中年世代は働くことそして格差社会の厳しさに追われて疲れきっている。そういう中でひとりのんびり余生を楽しんでいいような、そういう階層があつていいはずがない。そのことをわれわれの方からしっかりと社会に訴え、行動を起こして、あの人たちは社会にとってたいせつな人たち、高齢者がいないとこの社会は成り立たない、子ど

もたちも中年もみんなが思うような社会を、もう一度志を新たにしてみんなで取り組んでいきたいと思います。

よろしく力を合わせてください。

そのあと新役員会。